

当院における新型コロナウイルスワクチン接種前後の抗体価の推移

◎國武 葵¹⁾、安永 綾子¹⁾、磯嶋 博子¹⁾、岡村 由貴¹⁾、石堂 真優¹⁾、白水 弓子¹⁾、岡本 恵子、松本 果純¹⁾
社会医療法人財団 池友会 福岡新水巻病院¹⁾

【はじめに】

新型コロナウイルス (SARS-CoV2) はコロナウイルスのひとつであり RNA ウイルスの一種である。現在国内外で感染予防と重症化のリスクを減らすためワクチン接種が進められている。

【目的】

当院で行った職員へのワクチン接種によって得られる抗体価の増加率の評価を行う。また副反応との関連性についても調査する。

【対象と方法】

抗体価測定の間・対象は 2021 年 3 月 4 日から 2022 年 6 月 4 日までの当院職員 298 人 (満 19 歳から 72 歳、男性 95 人女性 203 人)。抗体価測定に使用した機器は ARCHITECT (Abott 社製)。試薬は ARCHITECT SARS-CoV-2 IgG II Quant である。抗体価は Abott 社が定める 50IU/mL を基準に 50 以上を陽性、50 未満を陰性とした。

接種後アンケートの内容は性別、年齢、生活習慣、基礎

疾患、接種の有無・ワクチンの種類・副反応症状、新型コロナウイルス感染歴について調査した。

【結果】

新型コロナウイルスのワクチン接種を受けた全ての人が抗体を産生していた。年齢別では 20 代が優位に高値であり、男女差では女性が優位であった。ワクチン接種から日数が経過すると抗体価の減少が見られた。

【まとめ】

新型コロナウイルスワクチン接種後の抗体価についてはどの程度抗体が存在すれば感染防御効果があるのか明らかになっていない。今後も抗体価の持続期間について調査を継続していきたい。

福岡新水巻病院検査室 : 093-203-2220